

学校概要

創立 27 周年	学校長 副島江理子	副校長 松永淳子	学期 2 学期制	児童・生徒数 394 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 3			主な関係校:	

学校教育目標

- (知) 自分の思いをもち、自分の力で積極的に学び続ける子を育てます。
- (徳) 規範意識をもち、自分も相手も大切に、自信と思いやりのあふれる子を育てます。
- (体) 生命を尊ぶ気持ちをもち、自らの健やかな体をつくる子を育てます。
- (公) 学校や地域に親しみ、まちの一員として積極的にかかわる子を育てます。
- (開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、広い視野をもち、世界とつながろうとする子を育てます。

学校の特徴

本校の子どもたちは市の学習状況調査を見ると学力層A群が多い反面、D群も一定数存在し、学力の二極化が見られます。また、学力が高くて意欲や自己肯定感が低い傾向が見られます。子ども一人ひとりが自分の思いをもち、相手の思いも尊重しながら、様々な場で豊かに伝え合い、実際に行動していくことができれば、自己肯定感や有用感ももてるようになり、自分をよりよく高めていく力が育つと考えます。また、一人ひとりの学習状況に合った学習支援が行われることで学習に対する意欲と安心感も生まれると考えます。そのためには本校の児童の実態に合った学習や生活の在り方を学校として追求し、全職員が指導の工夫・指導力向上をめざし、協働して子どもたちを育てていきます。また、地域の方々の教育力を活かすことにより、地域との関わりが増し地域に関わろうとする気持ちを育成します。

学校経営中期取組目標

- (1) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。
- (2) 子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。
- (3) 教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。
- (4) 学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校をつくります。

小中一貫教育の取組

a5 ブロック : 岡津中学校

9年間で育てる子ども像	様々な人とのコミュニケーションを大切にしながら、自分らしさを発揮し、地域の中で心豊かに生きる児童・生徒を育てます。
自校の具体的取組	・子どもたちが安心して中学校に進学できるよう、小中合同授業研究会、児童中学校訪問、部活動体験、生徒会小学校訪問、6年担任との情報交換を実施します。 ・「緑園地区小中一貫校」設立に向けて、この地域の子どもたちにどのような力を身に付けるかを共有し、本校の先進的取組である「学校図書館活用と学校司書連携」をブロック内で共有します。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	・子どもたちの主体的・協働的な学習を追究し、学習意欲・思考力を育てます。 ・どの学力層にも応じた指導の在り方を考えます。	①学状調査等のデータをもとにした児童の実態把握のもとに具体的手立てを講じる。②子どもが自らの課題を調べまとめ表現する学習、グループ学習や子どもによる授業進行等を通して、主体的・協働的な学習を追究する。③主体的に思考を深めていけるような学習課題の設定や思考力育成を研究し、どの学力層にも応じた指導の手立てを講じていく。
豊かな心	・子どもたちの主体的な活動を通して自律・自立を促し自尊感情を高めます。 ・自分も相手も大切にする心を育む取組を進め、互いを尊重する子どもを育てます。	①子どもたちの課題に即した道徳授業の創造に取り組む。②「けがOプロジェクト」なかよし活動」を核にした委員会活動・異学年交流等、子ども主体の生活づくりを進める。③地域や社会と関わる機会を増やし体験を通して多様な人々への共感を育む。④「緑園音楽祭」「全校音楽朝会」を核とした音楽活動や「学校図書館活用」による読書活動を進め豊かな情操を育む。
健やかな体	・児童自身による健康的な生活に向けての取組を進め、児童の問題意識をもとに活動の充実を図ります。	①なわとびによる体力向上を軸に児童自身の問題意識を生かした体力向上に取り組む。②「けがOプロジェクト」による子どもたち自身による問題解決的な「健康な体づくり」の活動に取り組み、自分たちの生活態度・生活習慣の形成に取り組む。③体カテストの結果等を保護者と共有するなど、家庭や地域と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。
教育課程	情報操作能力を高め、学習意欲・思考・判断・表現力の一層の育成をめざします。体系的に体験重視の学習や活用型授業の創造を図ります。個に応じた指導を追究します。	①めあてとふりかえりを大切に児童によるPDCAサイクル。②学校図書館活用・学校司書との連携取組のカリキュラム化。③思考ツールの効果的な導入や子ども司会型授業の授業の確立。④教科学習を結びつけた「横浜の時間」の創造。⑤姉妹校交流を中心とした外国語活動カリキュラムの構築。⑥緑園音楽祭を中心として音楽の意欲と表現力の向上。
特別支援教育	「特別支援」から「個に応じた支援」へとさらに意識を高め、どの子にとってもわかりやすい支援のあり方を検討していきます。区別・差別のない学校づくりをめざします。	①きめ細かく個の状況を捉え、専門機関やカウンセラーとの綿密な連携を図りながら個に応じた支援を行う。②個別支援学級の全校や地域への発信や活躍の場を増やす。③自信をもって活動できるように誰でも相談できる「個に応じた支援」体制(ハッピールームの常駐)を強化し、どの子にとってもわかりやすい学習、互いに尊重し合える学校づくりをさらにめざしていく。
地域連携	学校運営協議会を基盤とした地域連携を図ります。子どもの地域参画意識を向上させます。地域と連携して、児童の安全見守りを強化します。	①子どもたちが自覚をもって地域と積極的にかかわるよう「ガッツ緑園」(地域でがんばる)というスローガンを意識化する。②子どもたちの「地域参画力」を向上するために、学習との関連を図り、地域との連携による単元開発を進める。③キッズクラブとのさらなる連携を図る。④学校運営協議会を軸として地域との協働ができる体制を整えていく。(PTAも含めて)
研修・研究	日々の授業改善への意識を高め、チームで楽しく研鑽を積んでいきます。すでに他校の研究発表会や研修に出向き研鑽を積みみます。	①重点研だけでなく、毎時間の授業で改善を図っていくという共通理解のもと、常にどの教科でもよりよい授業をめざしての研鑽を積む学校文化を育てていく。②さらなる意識向上を心がけ、チームで楽しく研鑽を積んでいく。

人材育成・組織運営	小規模校の強みを共有し、それを生かした学校運営をしていきます。学年2名体制において、チームで対応という自覚をもって学校協力体制で取り組んでいきます。	①研究会参加や市研究会の授業発表を引き受ける等、積極的に取り組む。②減少する一方の教職員組織でどのように創造的な学校運営をしていくかは引き続き検討していく。③小規模校の強みを教職員で共有し、それを生かした学校運営をしていく。④学年2名体制において、どちらも学年主任・チームで対応という自覚をもって級外と連携をとりながら取り組んでいく。
担当	松尾	